

日本福祉大学 第29号 松本オフィス通信



- No.1 学生奮戦記
No.2 オープンキャンパス、信州+（プラス）
No.3 Well being for All From NAGANO
No.4 NIPPUKU NEWS、入試TOPICS

日本福祉大学は、学園創立70周年を迎えました

1953年、中部社会事業短期大学として誕生した日本福祉大学は今年、創立70周年を迎えました。本学は戦後の日本社会の発展と共に成長し、常に社会の課題と向き合ってきましたが、「ふくし」の課題は今もなお、増え続けています。これからも日本福祉大学は幸せを創造する大学として社会と共に歩み続けて参ります。

70周年サイト



2027年4月 社会福祉学部が東海キャンパスへ移転します！

2027年4月、東海キャンパスの拡張に伴い、社会福祉学部が移転します。社会福祉学部の移転に伴い、東海キャンパスのコンセプトである「産官学連携」、「グローバル化」を基盤に、新たなふくし、新たな研究や事業、多様な連携を生む、「創造」するキャンパスへと進化していきます。先駆けて、社会福祉学部では2025年4月よりカリキュラムを刷新。総合政策専修と現代社会専修の2専修制となり、多彩なプログラムで幅広いキャリアプランを実現します。

半田キャンパスに「工学部」が誕生します！

人生100年時代を迎えた今、すべての世代が安心して生きがいをもって暮らしていくため、本学でもその一翼を担う人材の育成に力をいれてきました。そして、時代のニーズに応える工学教育をさらに推進するため、2025年4月、半田キャンパスに工学部（仮称・設置構想中）を開設します（予定）。工学部では、情報工学、建築学を両輪に、人々の健やかな生活に貢献できる情報システム・AIの開発、住環境・生活空間づくりができる技術者を育成していきます。

詳細はこちらから→



学生奮戦記

今年70周年を迎えた本学が掲げるテーマは「Well being for All」。その理念の下、学生たちもすべての人々のしあわせを想い、活動を続けています。今回は将来の目標に向かって奮戦する2名の学生の活動をご紹介します！

仲間とともに ~やりたいこととしてなりたいたい自分に~

看護学部看護学科4年 平澤 奎さん (長野県阿南高等学校出身)



コロナ禍で始まった大学生活

入学時を振り返ると、コロナの影響で入学式も中止となり、1年生の前期はすべてオンライン授業という自分が思い描いていた大学生活とは全く異なるスタートとなりました。「コロナがなければもっと違った大学生活を送っていたの」と考えることもありましたが、そんな中でも高校生の時とは違い、自由度がとても高く、好きなことと学びを両立することができたので、大学生活は充実したものでなりました。私は大学2年生から弓道部に所属しています。看護学部は忙しいイメージがあるかと思いますが、アルバイトや授業をしながらでも部活動に参加することができ、大会などにも出場していました。友人たちも授業がない日には旅行をしたり、長期休暇を利用して短期留学をするなど、それぞれに充実した学生生活を送っています。大学生は自由に使える時間が多い分、後になってこうしておけばよかったと後悔することも多いです。自由な時間が多いからこそ無駄遣いをしないように心がけて生活しています。



看護学部での学び

福祉の大学ということもあり、1年次から選択授業で福祉について学ぶことができます。看護学部のカリキュラムの中にもチーム医療や他職種理解の授業が多く、他学部と合同の授業もありました。社会福祉士(MSW)や治療に関わるあらゆる職種の連携を間近で見ることで、多職種連携の理解を深めることができるとともに、地域中核病院への実習もあるため、医療と地域とのつながりについて深い学びができることも魅力だと感じています。そういった学びから、退院後の生活を見通した看護計画を立案することができるようになりました。一方で、病院実習では命を守る職業たる故、求められるレベルも高く、辛く逃げたいと思ったこともたくさんありました。それでも、同じ実習メンバーの支えもあり、乗り越えてくることができました。多くの課題に直面する看護学部において、一人で解決することの限界とチームとして支え合うことの大切さを学ぶことができました。



看護師を目指す皆さんへ

看護学部は9割が女性という環境もあって、男性は肩身が狭いというイメージを持つ人も少なくないと思います。しかし、看護師という同じ目標に向かって共に努力し、試験を乗り越える「仲間」という意識が強くなるため、男女の壁を超えて仲良くなることができます。その一方で、男子が少数であることから男子間の友情はより一層強まっているのではないかと感じます。また、日福は演習などの場面において、必要に応じて男女で分けられるため、授業を受けやすい環境になっていると感じます。これまでの実習や授業での学びを通して、興味のある分野を見つけ、その分野に強みをもつ病院を探してきたことで、希望する愛知県内の病院から内定をいただくことができました。今後はさらに認定看護師や専門看護師などの資格も目指し、将来的には救命救急で働きたいと考えています。まずは、看護師の国家資格をしっかりと勝ち取って看護師としての第一歩を踏み出せるよう頑張ります。



学ぶことの楽しさとたくさんの経験

社会福祉学部社会福祉学科人間福祉専修3年 勝野 美和さん (長野県豊科高等学校出身)

学校生活は学びの連続

私が所属する人間福祉専修は、社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験受験資格取得をダブルで目指せる専修です。この専修は、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、精神保健福祉など社会福祉学科の4つの専修の中でも特に福祉を幅広く学ぶことができます。これまで多様な福祉を学ぶ中で、自身の興味・関心が増えていくと同時に、卒業後の分野に進みたいのかと問うことが増えてきました。迷いもありましたが、福祉に関心を持つきっかけであった高齢者分野を実習先として希望し、地元長野県の居宅介護支援事業所での実習が始まりました。実習では社会福祉士の倫理綱領(心構えなど)、利用者の方とのコミュニケーションの取り方や言葉の背景について考えるなど、現場でしか経験できない新鮮な学びが得られました。実際に働いている方からのお話は大学の学びとは違った視点や発想を得ることができ、そういった現場での学びを活かし、実習後の講義ではコミュニケーションについて意識し、自身の考えを言葉にして出すことを心がけています。今後も精神保健福祉士課程の学び



と併せ、自身の知識やスキルを高めていきたいです。学校生活は、学びの連続です。たくさんの学びや経験ができる大学での4年間はあっという間なので、日々大切に過ごしていきたいです。

ボランティアサークルたんぼぼ

ボランティアサークルたんぼぼに所属し、小学生から40代までのダウン症の方々と交流をしています。水族館や動物園と一緒に回ったり、節分やクリスマスなど、季節の行事を楽しむ活動も行っています。もともと、サークル活動には興味があったものの、日々の学習やアルバイトなどの忙しさからなかなか一歩が踏み出せずにいましたが、一度参加してみると、活動前に抱いていた不安を忘れてしまうほど、心から楽しんで活動していることに気がつきました。先輩もとても明るく頼もしい方ばかりで、月に数回の活動日が毎回楽しみとなっています。サークル活動を通して、障害のある方々と話をする機会を得られたことで、障害者理解をさらに深めることができ、コミュニケーションの取り方などを学ぶことができました。



今後の目標

社会福祉士の実習を通して、さまざまな背景を持つ利用者、ご家族の方への支援について考えた経験から、福祉は人の将来を見据えて動く魅力ある仕事だと感じ、将来は高齢者分野で利用者とそのご家族に寄り添うケアマネジャー(※1)になりたいと思うようになりました。今後も社会福祉士と精神保健福祉士の学びは続いていきますが、「自身の能力や知識を高めることは、利用者の支援につながる」という実習先での学びを胸に刻み、これからも視野を広げること、知識や技術をより高めていくことを目標に頑張りたいと考えています。

※1 ケアマネジャーになるには保有資格や勤務年数、講習の受講等の条件があります。



在学生・卒業生に会ってきました！

全国各地の在学生・卒業生を地域ブロックセンターがリレー形式でインタビュー取材する「在学生・卒業生に会ってきました!」。松本オフィスでもこれまで3名の卒業生と、3名の在学生(取材当時)の方々に話を伺ってきましたが、今年度、新たに長野県出身の在学生と卒業生、2名の方にお話を伺う事ができました。下記QRコードからぜひ、ご覧ください。

- ◆2023年5月掲載 小泉 寛汰さん(社会福祉学部3年)
◆2023年10月掲載 土田 玲央さん(宮田村教育委員会)



お二人のインタビュー内容はこちらから→



入試TOPICS



受験生サイト

入試に関することは「受験生サイト」をチェック!

日本福祉大学が気になったら、まずは本学HPの「受験生サイト」をチェック!各学部の最新情報をはじめ、オープンキャンパス、相談会など、あらゆる情報を入手できます。キャンパスガイド、過去問などの資料請求もできますので、幅広くご利用ください!



一般入試【前期】は県内3会場で受験できます!

2月3日~5日に実施される一般入試【前期日程】は長野市、松本市・飯田市の県内3会場で受験可能です。ご利用しやすい受験会場をお選びください。

社会福祉学部 スカラシップ入試

社会福祉学部をお考えの皆さん、「社会福祉学部 スカラシップ入学試験」に挑戦してみませんか?スカラシップで合格すると、特別育成プログラム教育に参加でき、4年間の授業料と入学金が半額に!スカラシップを逃しても一定以上の成績で、一般入試の合格の権利を得られます。

過去問はWEBサイトから

2023年度の入学試験問題がWEBサイトから閲覧、印刷できるようになりました。一般推薦入学試験から、一般入学試験(前期)までの試験問題を掲載しています。なお、2022年度の入試問題が欲しい方は受験生サイトから請求をしていただくか、松本オフィスまでお問い合わせください。

受験生のみならず、共通テスト後の出願でも間に合う入試はまだあります。最後まで諦めず、挑戦を!

松本オフィス通信のバックナンバーは下記QRコードからご覧いただけます↓



松本オフィスへのご質問・ご相談・来室の予約はこちらのフォームから→



日本福祉大学 松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-1-24・3F
TEL: 0263-31-9011 FAX: 0263-32-8018
MAIL: e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp
OPEN: 火曜日~土曜日 9:30~17:30
CLOSE: 日曜日・月曜日・祝日

入試のご相談・面談をはじめ、ささいな事でも、お気軽にご相談ください!なお、留守にしている場合がありますので、来室される場合は事前にご連絡いただけると幸いです。

あなたにとっての福祉(ふくし)とは？

Well being for All From NAGANO 長野県にゆかりのあるお二人からのメッセージをお届けします。

# 健康の秘訣は「人々のつながり」にあり

日本福祉大学 社会福祉学部  
宮國 康弘 先生

## 人と繋がることで健康になる？

長野県は全国でもトップクラスの長寿県として知られています。減塩運動や保健指導員等による保健活動もその要因とも言われています。健康の3原則に「運動」「栄養」「睡眠」がありますが、それだけでは健康増進活動はうまくいかないことも研究でわかってきました。

近年、注目されている健康に関する要因とは、「人々のつながり」です。「人々のつながり」とは、友人や知人と会うこと、悩み事や愚痴などを話したり、聞いたりすること、自治会活動や老人クラブ、趣味活動などの社会参加をすることなどです。これらのつながりが、寿命を延ばすこと、要介護状態になることを予防することが研究で明らかとなってきました。

また、認知症予防についても良い影響があり、例えば、約14,000人を10年ほど追跡した研究では、①配偶者がいる、②同居間家族の支援がある、③友人との交流がある、④地域のグループに参加をしている、⑤就労している、この5つに多く該当していると、10年間の認知症発症率が半減していたことが分かりました。

別の研究では、ポジティブな感情を持っていることや、感情や社会性に関わる脳の部位に厚みがある高齢者は認知症になりにくいことも分かっています。認知症を根本的に治すことができない現代では、認知症発症のリスクを半減できる可能性がある「人々のつながり」は大きな意義があります。

## 長野県は人とつながる社会環境がある

長野県は、学ぶ施設が多いのが特徴です。国の統計によると、人口100万人当たりの「公民館数」は全国1位、「図書館数」全国2位、「博物館数」全国1位、「社会体育施設数」全国2位です。公民館については、全国的にも有名ですが、その他にも学びが多い施設、言い換えると、人々につながるための施設が多いとも言えます。

また、家族の次の地域単位である「隣組・組合」が残っており、近隣住民との接点がつくりやすい自治体もあります。普段からの声掛け、見守り、交流、このような普段から人々につながる環境があることが、もしかすると、長野県の長寿・健康の一助となっているのかもしれない。

## 日本では2021年「孤独・孤立対策担当大臣」を発足

英国では、人々のつながりを促すために、孤独担当大臣を2018年に新設して、国を挙げて取り組んでいます。日本も世界で2カ国目に孤独・孤立対策担当大臣を設置・任命し、現在取り組みが進められようとしています。

長野県の特徴的な人々につながる社会的な環境をさらに研究し、住民による活動を促すことは、日本や世界にも発信できる可能性を秘めています。



宮國 康弘 ミヤグニ ヤスヒロ  
専門分野:社会福祉調査論、公衆衛生学、社会疫学

NPO法人 ハートラインまつもと  
理事長 東條 知子 さん

志のような感覚ですね。だからこそ、「ふつうのくらしのしあわせ」が保障され続けていく事を、私たちは大切に考えなくてはならないと思っています。



## 多様な人々との出会い

現代は「多様性を認め合う時代」と言われています。

私はのどかな田舎で生まれ育ち、自分自身の考え方で保守的だなぁと思う事がたくさんあります。巨人・大鵬・卵焼き世代ですし…。でも、日本福祉大学で学び、福祉の仕事に携わることで、様々な考え方や生き方をしている方々に出会うことができました。与えていただいた環境の中で出来ることをしてきましたが、人との出会いや学びや関わりから、多様な人があるから世の中って成り立っているし、魅力的なんだ!と改めて思っています。

同窓生や学生さんたちと話していると、「人っていいね」、「歴史って辛い事や良い事の繰り返しの中で幸せを求めている事だよ」といった私の考え方のベースにある共通するニオイのようなものを感じてしまいます。

## 幸せを求めて

福祉現場の人手不足や人材不足は深刻です。そんな中でも福祉に興味を持ってくださる若い方々と一緒に、このニオイを感じながら一緒に「ふくし」という目標に向かっていけるとうれしいなあ!と思っています。

若い方々のキラキラした笑顔は勇気と希望です。



東條 知子 トウジョウトモコ  
日本福祉大学 長野県地域同窓会 会長

# ココロを育ててくれた、福祉の仕事

## 日福生ならではのニオイ？

私は、1978年3月に日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科を卒業した、「朴中組」の同窓生です。先日在校生に「朴中組」とお伝えしたのですが、ピンとこない感じの反応でした…時代の変化の中で、私たちが当たり前と思っていたことが、そうではなくなっている事が沢山あると実感したエピソードの一つです(笑)。でも、時代の変化の中で変わらない事や考え方などはたくさんあると思います。

大学卒業後、40数年が経ちましたが、不思議と日福生には同じようなニオイを感じてしまいます。



朴中(いりなか) キャンパス/1979年

## ふくしの道へ

卒業後は、社会教育的なことに興味があり、生まれ育った長野県南信地域の消費生活センターにて相談員として働きました。その後すぐに結婚～出産、夫の転勤に付き合っって主婦業や子育てを楽しみ、その時に活動していた「子ども劇場」はよい思い出です。

松本にある夫の家に戻った際、たまたま市役所の嘱託職員に応募した履歴書から、障がい福祉の現場に就職することになったのが今から30年ほど前のことでした。

「精神障害者通所授産施設(現在は就労継続支援D型事業所)」の指導員にと声をかけていただき、自分にできるかな～という不安を抱えつつのスタートでした。3日目には「こんなに色んな事でできない!」と思っていたのですが、気づいたら障がい福祉の仕事にどっぷりはまっている自分でした。



# 長野県発! 美浜キャンパス オープンキャンパスバスツアー を大解剖!

オープンキャンパス開催に合わせて、長野県内各地と日本福祉大学をむすぶオープンキャンパスバスツアー。2019年の開催を最後にコロナ禍で運行ができずにいましたが、今年4年ぶりに復活しました!松本・伊那・飯田を経由し、いざ美浜キャンパスへ! キャンパスガイドだけでは伝わらない大学の雰囲気や実際の講義を自身の目でしっかりチェックできるオープンキャンパスバスツアー。2023年7月23日(日)に開催した様子をお伝えします!

**START** 長野県を出発!

オープンキャンパスをフルに楽しむために早朝の出発になります。バス内ではゆっくりお過ごしください。

**バス内で** 本日の流れを説明

バスでは当日のスケジュールや参加の際のポイントなどを説明。到着時刻の関係で参加できないプログラム内容もバス内でしっかりフォローします!

**美浜キャンパス到着!**

長野県出身の学生スタッフがお出迎え!

どのプログラムに参加しますか?

**いざ、キャンパス内へ!**

広いキャンパスですが、先輩たちの案内で移動もスムーズ。移動中も大学生生活のアドバイスやひとり暮らし、アルバイト事情など、気になることを何でも相談できます!

**各種説明会・相談会**

大学説明・学部説明の他、就職・学費など、さまざまな説明会にご参加いただけます。また、個別相談会や一人暮らし紹介など、皆さんの不安や疑問にお答えするブースも設置しています。

**学食体験**

栄養バランスが考えられたセットメニューが人気。何種類かあるメインメニューから選んでいただき、ご飯の量も選べます。

**オープンキャンパスを体験**

キャンパス滞在中はそれぞれ希望するプログラムに自由に参加いただけます!

**キャンパスツアー**

皆さんの参加したいプログラム会場へ学生スタッフがお連れします。移動の間も、学部や入試のことはもちろん、サークル、大学生生活、ひとり暮らしなど何でも聞いてください! 長野県出身の学生が担当してくれるので地元の話題で盛り上がることも。

**学び体験(模擬講義)**

学部ごとに趣向を凝らした特色ある授業が体験できます。スポーツ科学部では車いすバスケットボールなどの体験会も実施。多くの方にご参加いただきました!

**参加者限定プログラム**

オープンキャンパスの全プログラムが終了し、長野県、静岡県、富山県からのバスツアーで参加した全員が大集合!先輩たちに聞きそびれた事などを確認したり、参加した仲間たちと楽しく過ごします。

**記念撮影**

同じバスで出会った長野便の仲間、今日一日案内してくれた学生スタッフの先輩たちと思いのキャンパスで記念撮影。

**長野県へ**

美浜キャンパスを出発し、学生たちが住んでいる美浜町周辺を周遊しながら長野県へ向かいます。早朝からのご参加、本当にお疲れ様でした。

**GOAL**

バスツアーに参加した皆さまから感想をいただきました!

- 入学してからの生活についてお話を聞けたので、入学後の自分が想像できました。
- 同じ高校の先輩だったこともあり、すぐに打ち解けてたくさん話げできました。
- 進路にまだ迷っているの、受験前のアドバイスが聞けて良かったです。
- 自分の希望に沿って、キャンパス内を回ってくれて嬉しかったです。
- 学生さんのリアルなお話を聞けて、息子の受験に大変参考になりました。

# 2023 信州+ (フラス)

長野県出身の学生生活や長野県内でのフィールドワークを紹介している「信州+」。学生参加のフィールドワークを紹介し、みなさんの学生生活の充実と未来戦略をサポートする取り組みです。2023年、コロナ禍でstopしていた活動が徐々に再開!長野県を離れ、愛知県で生活をする中で改めて感じた長野県の魅力とは何でしょう?

## 地元を離れて気がついた、ふるさとの魅力 -宮田市に参加して-

2023年10月22日(日)に宮田村にて、4年ぶりに「宮田市場マーケットin宮田宿」が開催され、同村出身の学生3名が運営スタッフとして参加しました。まちなかを「みる、しる、たのしむ、わかちあう」をコンセプトに、宮田村の景観を考える会が主催となり、今年で6回目を迎えます。この日は、村の中心市街地の一部を歩行者天国にして、飲食や農産物のマーケット、クラフト体験、ダンスパフォーマンスなどの催しが行われました。「宮田まちなか博物館」では、宮田宿に関わる古文書や掛け軸、焼き物などが展示され、これまでの歴史や文化の紹介がありました。また、国の登録有形文化財になった土蔵や店舗を巡ることもでき、会場は賑わいを見せていました。

## 新たな発見で、答えが2つ

学生は、イベント主催団体代表者であり本学卒業生の天野さんや早稲田大学景観・デザイン研究室の皆さんと一緒に、前日の準備から片付けまで裏方に徹しながら、当日は、まちなかクイズラリーを担当しました。最初は、参加者への声かけ等にも苦戦している様子が見られましたが、次第に自ら呼び込みをしたり、地域の方々と世間話をする姿もありました。クイズに正解するとお菓子のプレゼント付きということもあり、多くの子も連日クイズラリーに参加。まちなかを歩きながら必死にクイズの答えを探していきますが、「正木屋さんの土蔵の屋根の下にいる動物は?」のクイズで誤算が…。正解は「鳩」となりましたが、子どもからは「亀」との回答が続出。それにしても、なぜ亀?



学生が実際に土蔵の下に行ってみると、確かに壁に亀の姿があります。建物の近くまで行かないと大人から亀の姿は見つけることはできません。また、逆に子ども達(特に小学校低学年)は建物から離れないと鳩の姿は見えないということが判明しました。「ホントだ!」、「知らなかった」、「なぜ鳩がいるのかな?」など、新たな発見に参加者同士の会話も弾み、1つだと思っていた答えが新たな発見で2つになりました。年代を超えて、地元の話で盛り上がるのも、宮田市ならではの光景だと思います。

## 地元へ貢献したいという気持ちを抱き、イベントへ参加

宮田市の起源は2016年の祇園祭からなっていますが、宮田市のことは知らなかった。高校を卒業するまで、宮田村で生活していた3人も、地域のこと(歴史や文化を含む)を聞かれると、まだまだ知らないことの方が多いようです。「今回イベントに参加することで、村のことや歴史を知ることができた」との感想が寄せられました。これからも地元へ貢献したいという気持ちを忘れずに、宮田村を離れて気がついた村の魅力や課題を、今後の活動にも活かしてほしいと思います。

## 福祉大学祭では

11月4日(土)、美浜キャンパスで福祉大学祭が開催されました。また、学園創立70周年を記念し「日福スポーツデー」事業として、少年サッカー教室、少年野球教室なども開催され、構内は学生だけでなく、高校生や地域住民の賑やかな声が続いています。長野県会では県人会メンバーの結束を強めるため模擬店を出店。今年は肉巻きおにぎりを販売しましたが、来年こそは長野県人会伝統の「豚汁」や「りんご」を販売したいとの声がありました。来年もご期待!

